

13  
3223  
49





喜水作  
西芳屋

三島局



かみ  
八  
犬  
侍

三島上

特  
へ13  
3223  
49

假名讀

大傳

三編

春水作

國芳画



文漢堂

一

原傳第士面伏姫富山入る及び其身大に穢され法華經の  
威力より入るも其欲を忘る事読経は舌な耳をすほ如く  
友とわして終に菩提心發せしより相感する等しむ胎に實  
ちるぬ實をぞ後第上三回に至りて八士出現おまほを文中の意  
味深長ゆゑ實に這冊子は大面目といはゆ一予が此假字讀大傳  
欲する處一筋は婦幼の憂は媚ふゆりて唯捷徑を肯まはる具  
眼の人の朝りて龍宮の門護る海月あるは是を又骨ぬる業  
子と言ふゆやせんこれに遺憾多るゆりて先圖に大衆の遊ばる  
作者は苦心又知るべし憶余多る思知るゆりて益ぬる淳言を

弘化五年戊申春正月吉旦開鑄

八傳三編



龍  
女  
廣  
路



法師  
大  
名

浪  
密  
網  
乾  
九  
文  
郎



小  
實  
大  
川  
莊  
助  
義  
任

新  
毒  
婦  
孫



大  
莊  
塚  
基  
官  
六



















淀田の  
をさあ  
る川  
山  
の

三の巻より... 淀田の... 川山... 山...  
の川山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

大助が... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...



# 國芳画

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

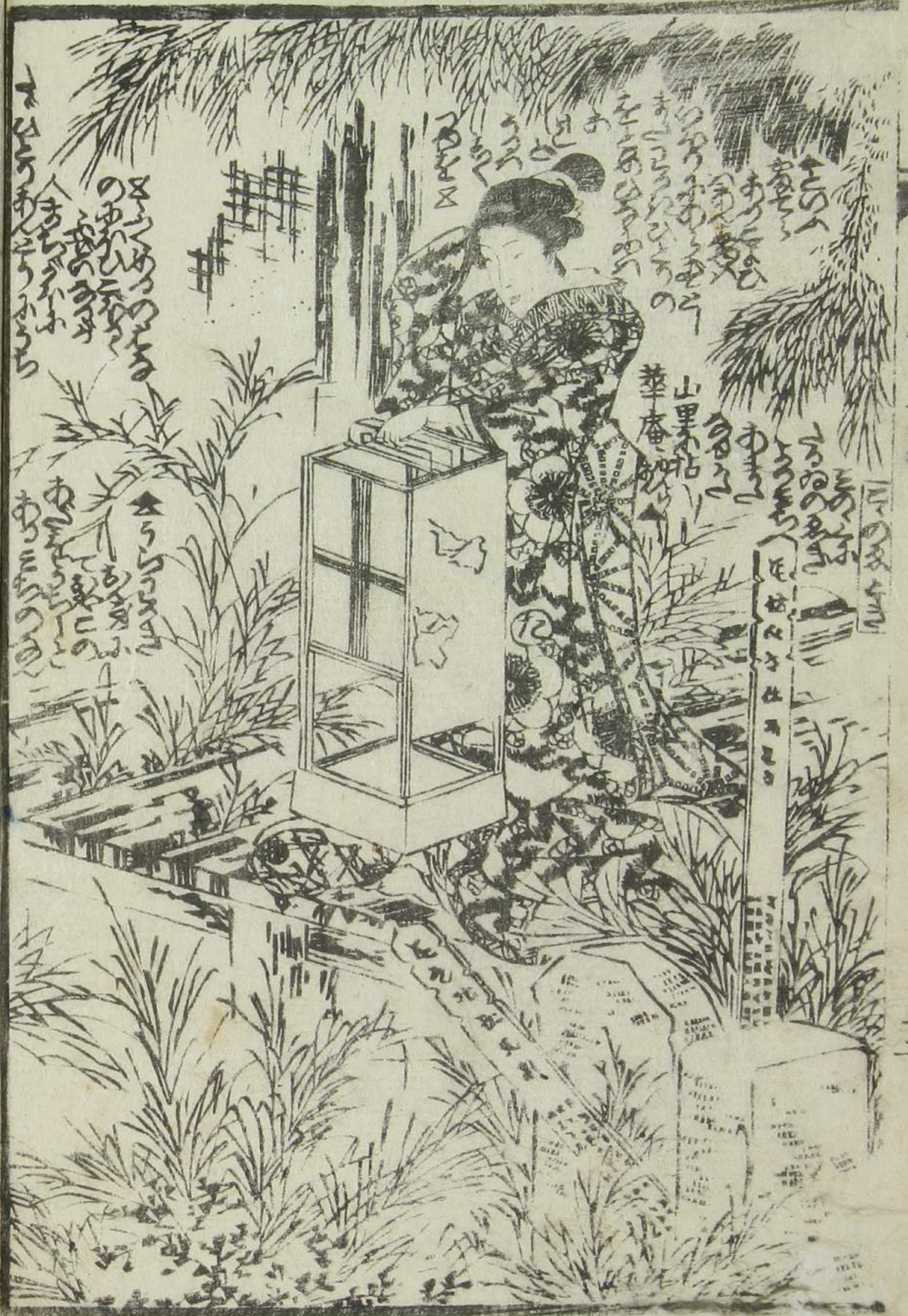


ついでにいさゝか... 山川せ... 十九り十八... どのつ... せま... どのつ... どのつ... どのつ...

あて... の... の... 法師... 指... 法師... 指... 法師... 指...



山川せ... 十九り十八... どのつ... せま... どのつ... どのつ... どのつ... 法師... 指... 法師... 指... 法師... 指...



山梨帖

山梨帖





このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに

このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに



このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに

このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに



このあつきの  
ついでに  
このあつきの  
ついでに







ついでにそのまゝに  
うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を  
ついでにそのまゝに  
うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を

このついでに  
うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を



うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を

ついでにそのまゝに  
うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を

このついでに  
うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を



うらやまのさか  
とてたゞおぼろ  
あつたをいふ  
はつたをいふ  
病室のまゝに  
うて月日を



Handwritten Japanese text surrounding the illustration, including a box labeled 'ハッ房' (Happō) and various annotations.

Handwritten Japanese text at the top of the left page, including a box labeled '実子' (Mitsuko).



Handwritten Japanese text at the bottom of the left page.



春水佐  
國芳畫

加永後  
犬傳



田編下

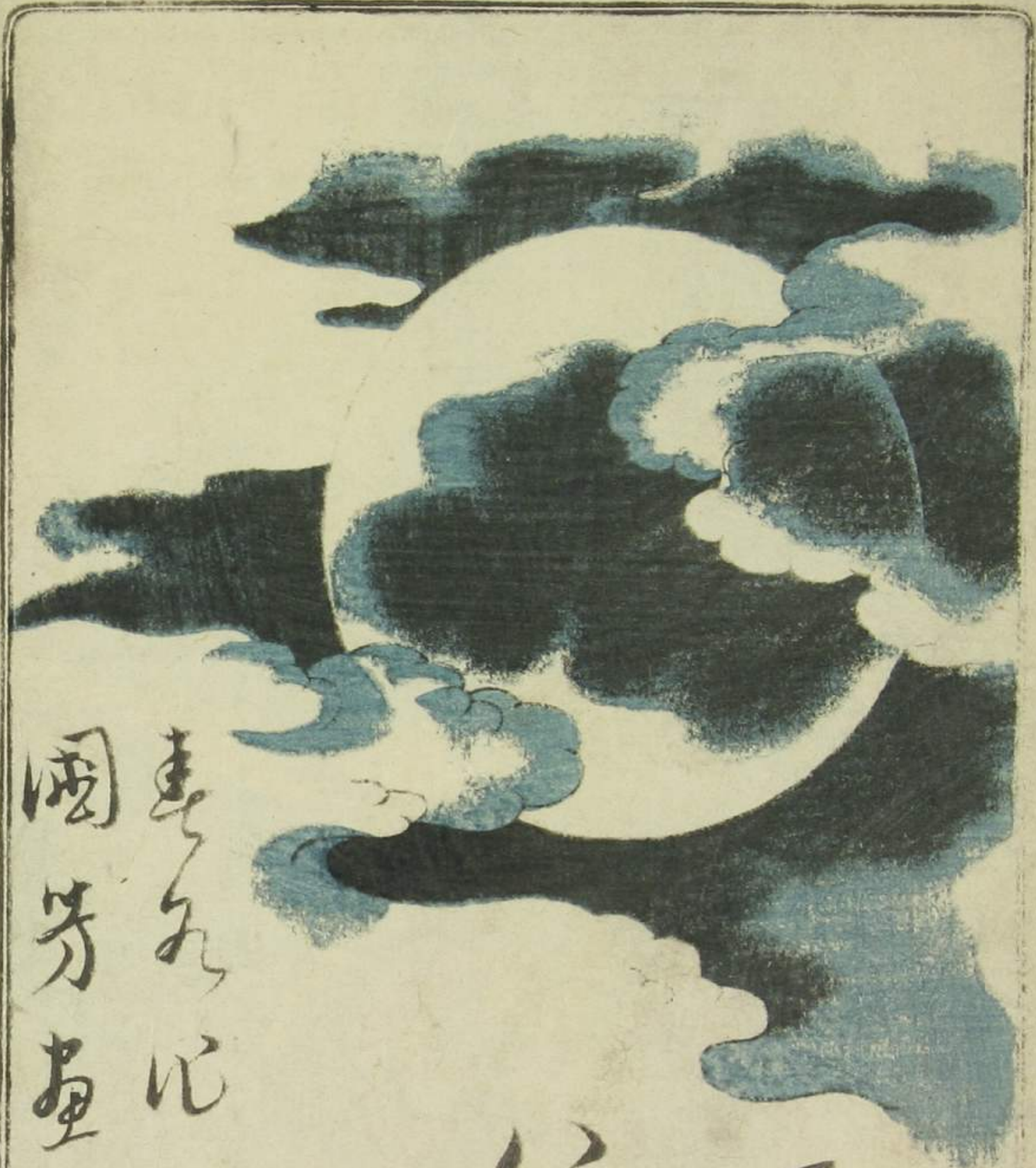


嘉永二年九月新刊

田編上







馬の比  
西芳堂

文漢堂

あはれ  
とみ  
ハ大傳  
四海下

假名讀ハ大傳四編序

勸善懲惡の下店ふ仁義八行の切賣ハ嘘八百正札  
 附めく他ふ掛直ハあはれめうらまきことる目とぬ作者乃  
 新廊看官がこの以具員と原傳の光り成笠又著く  
 身のりどあうぬ向ふ見を暗夜の鏡炮當あくむせうに  
 台書く申れ春その新版の初編りく二編三編おひくふ  
 綴り合せくまうらまきの今まき後を次輯ハ鳥許ハ四編  
 さうらうは是も身すだて夜をこめて机ハ筆残ぞう鳴曉  
 此鐘聞ワ記を

干時嘉永二年初春新刻

八天傳日編



衛ヌト  
 家マ

糠助ヌカノタマ



大塚オオツカ  
 艶ヒラの  
 莊シマ客カ

經營百事費精神  
 玉兔交時當得意  
 南北奔馳運未新  
 恰如枯木再逢春

犬川衛二イヌカワヌエニ  
 則任ノリニ



再出 さいしゅつ  
 大塚信乃 おほづかのぶの  
 戊孝 いさな



再出 さいしゅつ  
 濱路 はまぢ















此の世にあらはれし人の心は...  
 助の心は...  
 信...  
 大徳山...  
 助...  
 信...  
 大徳山...  
 助...  
 信...



此の世にあらはれし人の心は...  
 助の心は...  
 信...  
 大徳山...  
 助...  
 信...  
 大徳山...  
 助...  
 信...





そのまはらうのうらなをゆくの  
 ひかりあふくすのまをひき  
 うらなうらなうらなうらな  
 とするよ前後ののりあてを  
 まるくまのうらなうらな  
 あまのうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな

ひきまのうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな

そのまはらうのうらなをゆくの  
 ひかりあふくすのまをひき  
 うらなうらなうらなうらな  
 とするよ前後ののりあてを  
 まるくまのうらなうらな  
 あまのうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな



そのまはらうのうらなをゆくの  
 ひかりあふくすのまをひき  
 うらなうらなうらなうらな  
 とするよ前後ののりあてを  
 まるくまのうらなうらな  
 あまのうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな

ひきまのうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな

そのまはらうのうらなをゆくの  
 ひかりあふくすのまをひき  
 うらなうらなうらなうらな  
 とするよ前後ののりあてを  
 まるくまのうらなうらな  
 あまのうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな  
 うらなうらなうらなうらな

# 國芳画





江戸野郎  
五五



江戸野郎  
五五





この景平は、昔の助の...  
右の景平は、昔の助の...  
あつちを、あつちを...



さういふ、さういふ...  
さういふ、さういふ...  
さういふ、さういふ...





あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては



あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

三つあつてそのあつても...  
 母の天候...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...







つきのりともあるべき  
 人のたうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と

とうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と  
 とうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と  
 とうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と

とうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と  
 とうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と  
 とうりく考とよびぬ  
 ことあるもそのまじり  
 のちらんのみをわ  
 りん身と

一勇齋國芳画



代六四孔



梅の雪  
 代七五孔

青茂君... 梅の雪... 代七五孔  
 青茂君... 梅の雪... 代七五孔  
 青茂君... 梅の雪... 代七五孔  
 青茂君... 梅の雪... 代七五孔

御 加んの葉  
 一包 牛包 百  
 小包 五十 銅

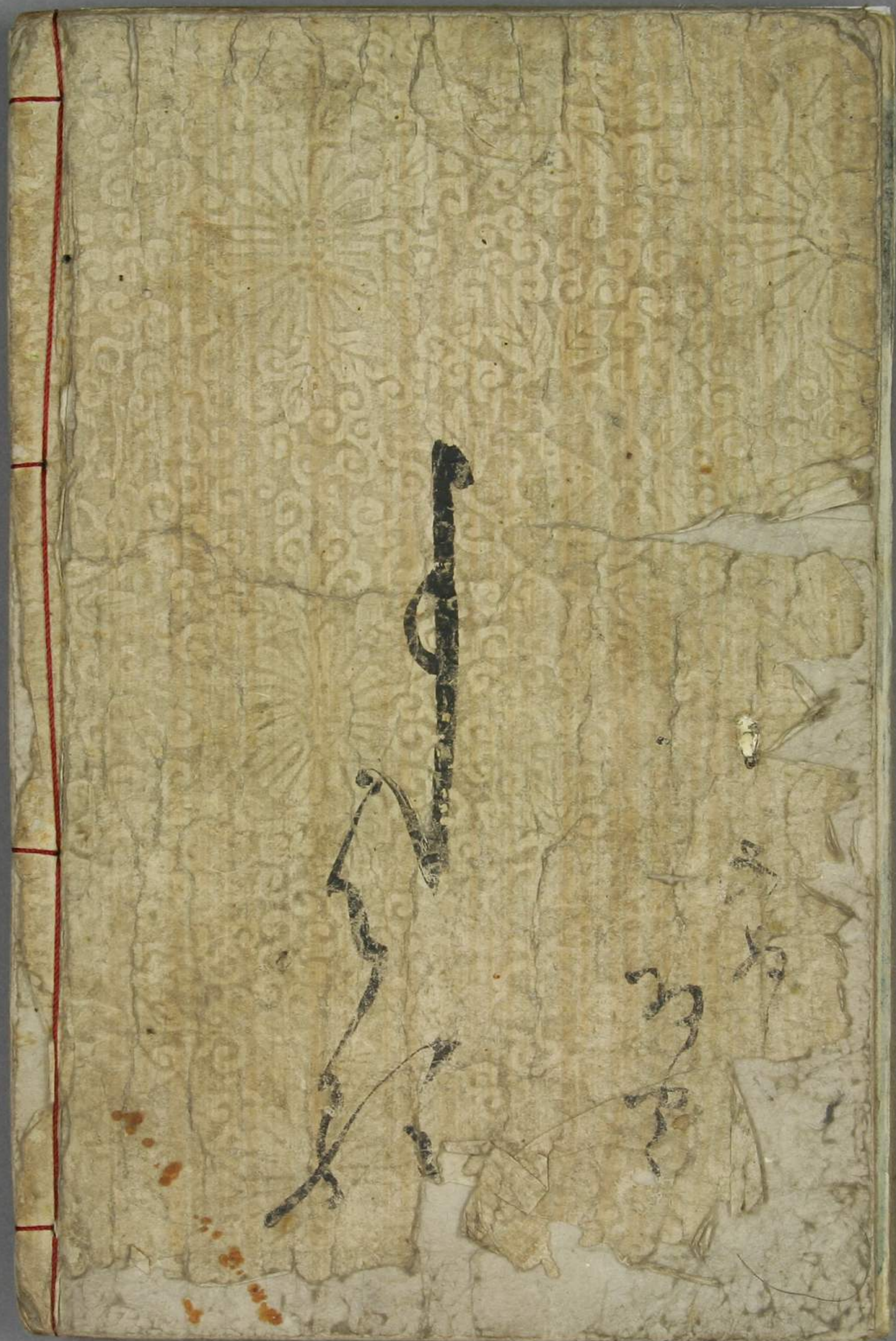
小児万病のめうや... 大和門司法橋製

たん 子乃の葉  
 一貼代 百廿四銅

たん 子乃の葉... 江戸大傳馬町二丁目

文溪堂

丁子屋平兵衛



Large vertical title character, likely a variant of the Chinese character '卷' (Volume).

Small vertical inscriptions on the right side, possibly a library or collection mark.



大傳四海

春水作畫  
國芳

文溪堂梓